

森 の 通 信

# ウータン

SAVE THE TROPICAL FORESTS

32

Hutan

1994年7月7日発行



KATYDID  
(COSTA RICA)

ウータン・森と生活を考える会

〒530 大阪市北区中崎西1-6-36 サクラビル新館308号「関西市民連合」事務所気付  
phone 06-372-1561

【一部】300円

【年会費】3000円

【郵便振替】0930-4-3880

PRINTED ON RECYCLED PAPER

# everybody on the 熱帯林!

Takuma A.Raki  
荒不琢磨

昨年未からウータンの活動に少しづつ加えて  
もううようになつてはや半年、はじめはよくわ  
からなかつた事務局会議の内容も、熱帯林議  
座の準備や反省等でスタッフの人達と話す  
うちにドンドン面白くなってきています。

今年の連続講座のねらいは、新たなスタッ  
フの獲得と参加者も積極参加型プログラムの導  
入ということで、ウータンにとつても新たな  
試みらしく、私のような新入会員も面白い会  
にする為いろいろ頑張る余地があるのです。  
第一回目は、参加者全員が友達になつて帰  
る位の大成行だったのに、第二回は準備不足  
と講師の渡辺氏のワナにはまって大反省、第三  
回目は段取りが悪かつたけど、講師の井上大  
さんのお話かうまくて、上々の結果。

事務局会議に顔を出してくれる人も増え  
て、いよいよ本領発揮の第四回ダァー!

## 【ウータン活動報告】

4・2	「熱帯木材使用削減に向けた取組み」要 望書を大阪府下の未削減自治体に送付。 4・13 泉大津市、「削減に向けた取組み」要望 書を回答。
4・16	ウータン、「熱帯林連続講座」第一回目。 4・20 阪南市、「取組み要望書」を回答。
4・21	泉佐野市、泉南市が「取組み要望書」を 返答。
4・22	門真市、和泉市は「取組み要望書」へ削 減したと回答。アースデー ウータン、大阪市と「削減の話し合い」。
4・22	出前講座*「ODAと熱帯林破壊」西岡 4・25 交野市は「削減」と「要望書」に回答。寝 屋川市は「検討中」と回答。
4・30	「AREE三変化成を問う」集会協力。 5・12 大東市、「取組み要望書」に回答。
5・13	摂津市、「要望書」に「削減」と回答。 5・19 富田林市、「削減」と返答。
5・20	四条畷市が返答。「枝打旗」打合せ。 5・21 「熱帯林連続講座」二回目。
6・4	「熱帯林連続講座」三回目。 6・23 報告会「サラワク・フィールドノート」 最新報告*辻村、前、荒川氏による

## 森の通信

## Hutan 32号 目次

### CONTENTS

- 熱帯林破壊の現状と今後 ..... 3  
ウータンニュース
- ウータンに届いたお便り ..... 17
- 自治体キャンペーン経過報告 ..... 4
- ウータンニュース ..... 18  
「熱帯林保護 粘り強く」
- 最新アラ77報告  
「アラ77のフィールドノート」 ..... 9
- ウータンアートギャラリー ..... 19  
井上 令子
- 熱帯林連続講座 ① ..... 15
- ② ..... 16
- \* 猪俣栄一さんの通訳は今号は都合で  
お休みいたします。

「サラワク」など

熱帯林破壊の現状と今後

日本の熱帯材の輸入状況は、マレーシア・サバ州の輸出禁止で、九三年の丸太輸入シェアが大幅に変わった。サバ三・九%（85%減）、サラワク州六六・二%（22.6%減、伐採量一六五〇万m<sup>3</sup>）と大きく減少。しかしその伐採量は、九〇年IITTO（国際熱帯木材機関）でサラワク州が決めた九三年の伐採量九五〇万m<sup>3</sup>をはるかに上回っている。この量すら「持続可能な」形でない、多くの学者が指摘している。ボルネオ島の熱帯林破壊は、奥地まで進んでいるのだ。

今年の報道では（日刊木材新聞 九四年五月二一日）「サラワク木材産業協会は緊急会の席で、丸太不足のためラジャン川方面で四六の製材会社が近く閉鎖に追いこまれるとして、対応策を求める決議をした」と言っている。今までの程度の過伐のためだ。誰に、どこにそのツケが廻っているのか。

それに比べて、パプア・ニューギニア、ソロモン諸島、ミャンマーでは前号で見たように、日本への輸出の急激な伐採が進んでいる。フィリピン、カリマンタン、サバのように禿山になる可能性が高い。今、熱帯木材使用削減運動を掲げることが急務ではないか。

しかし、嬉しいニュースもある。一つは、建設省や合板連合会などが「熱帯材資源の枯渇・高騰」を意識し始めたことだ。もうひとつは、IITTOで「森林の維持のために熱帯材等のラベリング調査を実施」することだ。これは熱帯材使用削減に向かう道だ。世界の趨勢が熱帯林保護に向かう今、最大消費国の日本で一層の削減・節約が必要だ。

森は単なる木材でない。多くの生命が育まれていることを、私達ももっと認識していかねばならない。

（文責・西岡）

熱帯木材に産地証明へ

IITTOが科学調査実施

国際熱帯木材機関（IITTO）第十六回理事会が五月二十三日までコロンビアで開催され、①木材のラベリングについて調査を進める②ワシントン条約への対応について調査を行うことが決まった。

「木材ラベリング・認証制度」は熱帯材などを保護するため、一種の産地証明書を添付しようというもので、すでにオランダやドイツが導入している。木製の家具を大切に使う欧州では消費者の環境意識が高く、持続可能な管理のなされた森林から伐採された木材でつくられた家具ということがラベリングではっきり確認できることの意味は大きい。

ワシントン条約（CITES）の付属書II（科学的データに基づいた調査が必要にラベリングをはじめとする南米産マホガニーと、マレーシアなどを産国とするラベリングを加えることも検討されたが、関係生産国が強く反発したため、国際熱帯木材機関が各種種について科学的な調査を行うことになった。

94.6/1 化学工業新聞

合板の原料転換率

今年15% 18%に 日合連 今野会長

今野善徳日合連会長は七日、当面の合板市況について、南洋材丸太高などによるコスト上昇により、相場は底打ちから上向きで推移する見通す一方、環境問題に対応してメーカーが進めている針葉樹への原料転換の比率は今年一五～一八%、メーカーによっては〇%に達するを語った。



今野 会長

今野会長の発言要旨は次のとおり。  
合板のコスト高要因として、二月の輸入合板の入荷は年初以来続いている南が二十八万九千五百立方メートル、洋材丸太の値上がりのほか、過去最高を記録した。しかし、五月から強化されるのに

FROM OSAKA

## 熱帯木材不使用へむけて 自治体キャンペーン経過報告

事務局長 西岡良夫

### 府下自治体約半数二二が削減!

「アースデー第一回全国いっせい行動」

「早く始めるべきやった!ー大阪府」

●サラワク・キャンペーン委員会の呼びかけで、「第一回自治体キャンペーン全国いっせい行動」がアースデーの週間に行われました。

ウータンは、府下自治体の削減未定の自治体に『熱帯木材使用削減に向けた取り組みの要望』を送る事と、削減策が進みつつある大阪府、大阪市と話し合う取り組みを行うことを決めました。

「全国いっせい行動の前に、ウータン会員のみなさんにハガキを各自治体に出して頂くように、前号でお願いしました。貴方の自治体の取組みは、どうですか?」全国いっせい行動では、七〇の団体、個人が各自治体に申入れました。

ほんまやったら、あんな地球サミットすらあった事やし、各自治体が積極的に取り組むのが本当とちやいますか。市民に頼まれてでは本末転倒でっせ!

●大阪市との話し合いは、アースデーの四月二二日になりました。というのは、大阪市の担当者が変わるという事で、そうなったんです。ウータンから三名、大阪府側は営繕部樋口主幹、中村課長代理、山川主査、熊野係長。

#### \*質問\*

- 一、大阪府が削減策を発表した九〇年の型枠使用量が一二五万㎡で、その後の使用量は?
- 二、大阪市の削減率の目標はどのくらいで、いつ頃か? 各年度の目標は?
- 三、今後どんな工法がいいのか?
- 四、都市整備局、港湾、下水道、交通局での削減量はどのくらいか?
- 五、削減策の予算計上はあるのか?

4月22日、大阪府庁舎での話し合い。



という文書を四月十四日付けで発送して、話し合いを始めました。昔は居眠りする関心のない担当者(?)も出て、それがマスコミ記事になったこともあったんですが、今の担当者は積極的で、「もっと早くから削減策を始めるべきだった!」と言うてくれたんです。

一の質問には、九三年は一三〇万㎡。

二、削減目標は現在設けていない。

モデル工事を幾つも行ない、そこから評価し検討したい。

九一年 四件モデル 一〇・五万㎡減

九二年 七件モデル 一三・六万㎡減

九三年 六件モデル 約一五万㎡減

(約一割しか削減していない！)

三、各年度の使用減を定めていません。

仕様書はモデル工事実施で検討中。

四、各部署の削減は港湾局と下水道局

港湾は九三、四年で七件モデル工事

実施で、一八・五万㎡削減。下水道局

は九四年に一件モデル、二千㎡削減。

五、この三月議会で研究費として予算

化して、今年実施状況を分析したい。

削減目標はそれからの予定と思う。

モデルの転用回数、仕上り具合、施

工の問題点、現場作業等の検討をし

っかりする方がよい。」との答。

▶ 大阪市側の返答です。

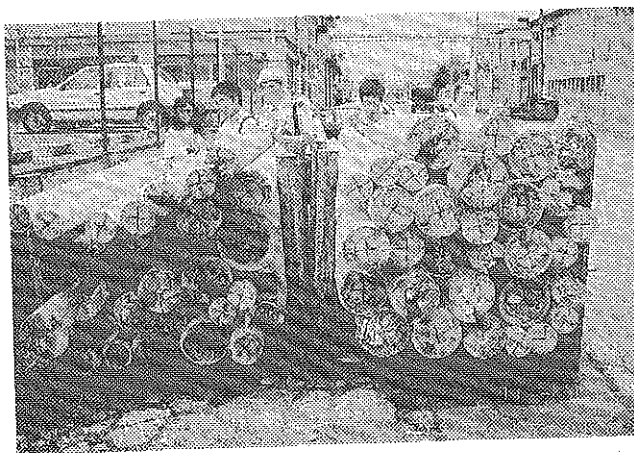
私達ウータンは、ちょっとガツカリしたんです。というのは、まず削減量が少なすぎる点と、削減目標の未設定です。それで口々に「削減目標を早く決めるような体制にしてや。削減量が少ない」と言うたんです。

大阪市側は「中小の業者が多いので、現場の声を反映せんと不満が出るし、削減目標を立てても難しくなるんです。

市として、環境面も含めてトータルに検討し、削減目標を設定となります。

民間への削減に繋がるよう努力します」と。

「今後、より良い目標を立て、民間へ熱帯材削減を拡げなあきまへんネ」と私達も同意して、話し合いを終えました。頼んまっせ！大阪市さん。



4 合板に使用されたあとの原木の山 (大阪・南港平林)

## 大阪府下の自治体の熱帯木材使用削減施策状況

1994年6月

ウータン・森と生活を考える会

### ※ここまで進んだ大阪府下自治体熱帯材削減策—— 22自治体が表明

1991年10月、東京都が熱帯木材使用抑制施策を発表してから、1992年1月に大阪市が、同年2月に大阪府が知事自ら熱帯木材使用抑制施策を発表し、同年6月に堺市も同じように「使用抑制施策」を発表しました。その後、八尾市、藤井寺市、松原市等担当部局との話し合いで、これらの自治体も「使用抑制施策」を打ち出すことが判りました。

ウータン・森と生活を考える会は、90年末から大阪府、大阪市と熱帯木材使用削減方法に何度も話し合いを持ち、92年1月に府下の各自治体へ『熱帯林保護の要望書』を送付し、熱帯林保護施策を打ち出すようお願いしました。その後、92年7月末に各自治体へ『熱帯林保全のための要望書』を送り、1年が経過した93年8月に、府下各自治体の使用抑制施策を知るために『熱帯林保護に向けた取組みについて』を送付し、94年4月に『熱帯木材使用削減に向けた取組みの要望』を送付しました。再集計した5月30日現在、大阪府下の各自治体の取組み状況は表のようになっています。

( )は92年度の型枠使用量

自治体名	熱帯木材使用抑制計画の概要または取組み状況	主担当部課
大阪府	22件のモデル工事を針葉樹複合合板、PC工法、金属型枠、ラス型枠等使用。特記仕様書に複合合板使用の明示。 93年度の熱帯材型枠削減量は全型枠の40%。削減目標75%。	建築部 営繕室 調査費有
大阪市	14件モデル工事実施。①業者からの提案工法、②市の指定工法の2通りで、複合合板、ブロック型枠、キーストン型枠、鋼製型枠、ラス型枠、樹脂型枠、断熱材兼用型枠使用。UNEP環境技術センターは日本初の100%非熱帯材。	営繕部 企画課 調査費有
堺市	3件のモデル工事実施。PC工法、デッキ型枠等使用。1件は市営旭丘住宅55%削減、1件は教育文化センター30%削減、1件は堺商高で17%削減。94年建設予定の市立病院、2支所は100%非熱帯材使用予定。(250000㎡)	建築課 庁舎建設 準備室
八尾市	92年起工新庁舎の型枠はスラブデッキ、メタルデッキ、ブロック型枠使用で25%削減。生涯学習センターはデッキ、キーストン型枠等使用で20%削減。94年度建築物削減予定。	建設部
藤井寺市	93年着工新庁舎をPC工法等採用。削減率は集計中。92年9月議会で「熱帯林材の保全に関する意見書」採択。	特定政策 推進室等
松原市	93年着工新庁舎の型枠を複合合板等使用。削減率は17%。	庁舎整備室
吹田市	塗装合板、複合合板使用で93年度削減率は約50%。「熱帯木材の使用抑制に関する基本方針」を93年に策定して、建設業界に抑制を呼び掛け。特記仕様書に塗装、複合合板使用を明記。(6000㎡)	建築課 技官

(表は8Pにつづく)

他の自治体も熱帯材抑制を検討中で、大成果と思います。府知事が「府下自治体等に抑制を呼び掛ける」と発言しているのです、今後未計画の自治体にも削減を促すものです。先進の大阪府、大阪市は年々モデル工事を増やしており、府、大阪市の担当者が「代替の型枠でも大きな支障がない」と言うように、今後熱帯木材の使用抑制は十分可能と考えられます。

また、熱帯木材の丸太輸入量の9割がマレーシア・サバ、サラワク両州からでしたが、木材資源が枯渇し(サバ州では輸出制限)、1992年の両州からの輸入量は7割に減り、熱帯材の高騰が続き、今後入手が困難になると思われます。

そのため私達は、削減した各自治体に後戻りしないように、下記の点を検討してもらおうべく、この6月以降対応します。

- ①熱帯材抑制の基本方針の策定、及び抑制の為の特記仕様書の明記の検討。
- ②府、大阪市等のような独自の建築工法の検討。
- ③削減目標の設定と予算化。
- ④高層建築物は耐久度も高いPC工法採用の検討。
- ⑤打ち放し型枠、足場材、下地材の見直し。
- ⑥建築担当部課を中心とした検討会議の設定。
- ⑦使用済みの木材再利用化の検討。
- ⑧なるだけ新建築物を建てない方向への検討。
- ⑨民間業者や建築業界に対して、熱帯材使用削減を呼び掛ける。

また今後、ウータンとしては、①市民団体、市議、建築家等で夏頃「削減検討会議」を設置していく、②7、8月頃、削減を始めている自治体に対して、今後の取組みを聞く話し合いを持っていく予定です。

### 「熱帯木材使用削減に向けた取組みの要望」(質問)

大阪府下自治体首長様《今回は未削減の自治体のみ送付》

質問について4月22日までにご回答下さるよう依頼します。

1. 貴自治体は、大阪府、大阪市などの熱帯木材使用抑制施策をどのように評価されておられますか。
2. 貴自治体の担当部課で、今年度に熱帯木材使用施策を打ち出されご予定がありますか。ある場合はどのような「施策」ですか。尚、来年、再来年度でも実施を検討されていない場合は、貴自治体では、それに変わる熱帯林保護策をお取りになる予定があるか、ご教示下さい。

1994年4月2日

ウータン・森と生活を考える会

高槻市	93年に2件モデル工事实施。1件は芥川小学校で35%減、1件は老人福祉センター。ラス等金属型枠、複合合板使用。	建築課
豊中市	92年3月末に「熱帯林の保全に関する要望決議」採択し、複合合板等の使用を始める。93年の削減率は全使用量に対し約30%。(70000㎡)	建築部
箕面市	大規模工事発注時、93年から熱帯材削減実施。業者に通達。	建築課
大阪狭山市	F P 板、FRP板、塗装合板使用を始めた。削減率不明。	建築課
守口市	93年度着工のシルバー人材センターは、複合合板、PC工法で90%以上削減予定。今後も業者に抑制の指導を図る。	建築課
東大阪市	93年着工の八戸の里スポーツランドは熱帯材抑制した設計。	建築課
枚方市	鋼製型枠等使用(実施年不明)。特記仕様書での工事検計中。	建築課
門真市	検討中→90年着工の市民文化会館はブロック等型枠等使用10%削減。今後市営住宅建設等も使用削減予定(答94.4.22)	企画室
和泉市	92年よりラス・メタル型枠、複合合板を使用。(答94.4.22)	建築課
岸和田市	協議中→94年に80%減の自然資料館モデル実施(答94.1.13)	建築課等
交野市	鋼製型枠への転用開始。近年は新建築物なし。(答94.4.25)	土木建設課
摂津市	協議中→93年完成の市庁舎建設はキーストン型枠使用。94年市民ホール建設に複合合板使用。今後削減す(答94.5.13)	都市開発課
富田林市	検討中→府土木部の建設工事基準に準ず。94年シルバーセンター建設には複合合板、鋼製型枠使用予定。(答94.5.19)	建築課 自治推進課
貝塚市	94年度から針葉樹複合合板使用予定。工法、使用方法等を調査検討しながら使用削減に努める。(答93.9.24)	建築課
茨木市	府、大阪市等の施策について一定の効果があると考えられるので、94年から複合合板使用を業者に指示。(答93.10.5)	土木部 建築課

●検討中〔各市〕

四条畷、寝屋川、大東、泉大津、泉佐野、泉南、阪南、高石、河内長野

「おおきに！ 拡がる熱帯材削減の輪」

四月二日、『熱帯木材使用削減に向けた取組みの要望』を大阪府下の各自治体に送付したところ、多くの自治体から回答がありました。

その前の十二月、枚方市の「鋼製型枠使用、今後は仕様書策定を検討」と回答があり、一月、岸和田市は「80%減のモデル工事实施」と回答を送ってくれました。十七自治体が削減です。

四月から五月にかけて、門真市、和泉市、交野市、摂津市は「鋼製型枠、複合合板等で削減実施済」と答があり、富田林市は「今年から実施」と返答がありました。その他、寝屋川市、高石市、泉佐野市、泉大津市などは「今後、取組みを検討」との答がありました。

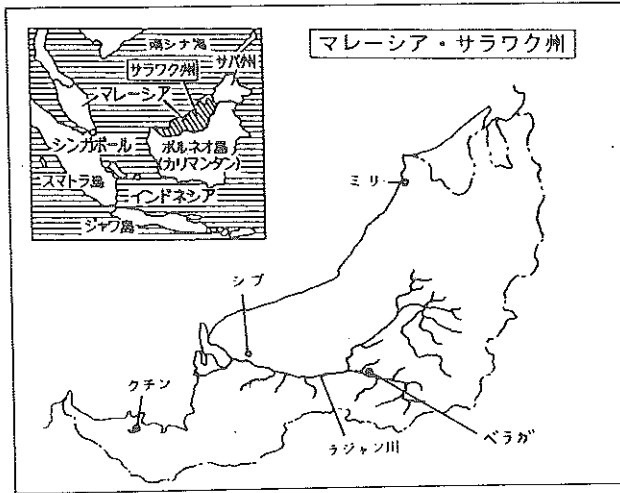
府下自治体四五のうち二二自治体が、実施または今年から実施となりました。会員のみなさん、おおきに！ 自治体の方々、今後も熱帯材削減頼みます！



## ◆ サラワクのフィールドノート ◆

— 熱帯雨林と川の暮らしと巨大ダム開発 —

塚森風太（ウータン）



四月三〇日（土）

晴れ（夕方小雨）

カピット ロング・バンドン

ベラガ ロング・ハンダワー

午前六時一〇分、目が覚める。

昨夜は、カピットの町の船着き場の近くのホテルに泊まった。

四月二七日の朝に成田を出発してから、ミリ、シブ、カピット

と泊まりを重ねて四日目。よう

やく熱帯の気候にも慣れてきた。

いよいよ今日からラジャン川上流部の旅が始まる。私にとって

は、昨年の七月に続き二度目の

サラワクだが、サラワク州最大の川、ラジャン川流域に入るのは初めてである。

今回のツアーのメンバーは全部で七人。ミリで、バラム川流域に行く四人と私たち三人のふたつのグループに分かれた。私といっしょにラジャン川流域をまわるのは、サラワクキャンペーン委員会の職員になったばかりの結木みのりさんと、ペウレウタリの会のシュニン悦子さん。二人ともサラワクは初めて。特にシュニンさんの場合、アイヌ民族がサラワクを訪れ先住民（ダヤク）と交流するのはこれが初めてである。そして、地元NGOのワーカー、ウオーレンがガイドとしてついてくれた。

ミリでは特に問題なくサラワク州に入ることができ、昨日はカピットでベラガ地域に入る許可を取ることができた。バクン

ダムの問題でラジャン川上流域はもつと緊張しているかと思つたが、そうでもない。

許可を取るためには居住者管理事務所（レジデンシャル・オフィス）と警察署を往復しなければならぬ。警察では、ひまを持て余しているのか四一五名の係員が出てきて、旅行者から集めているんだとコインのコレクションを見せてくれたり、友好的な雰囲気です続きが終つた。私も、十円硬貨、五十円硬貨をリングットと交換する。許可を申請した旅行者の名簿を見ると、欧米人が多いが、日本人の名前もちらほら見える。おそらくカピットから、上流のジャングルツアーに出かけるのだから。先住民のロングハウスに泊まり、ジャングルの中を歩いたりするらしい。

午前九時三〇分。カピットの船着き場からスピードボート（地

元の人はエクスパレスとも呼ぶ）に乗り、上流へと向かう。サラワクの大きな川には、スピードボートの便が発達している。町の船着き場には、行き先と出発時刻を表示したスピードボートが何そうも並んでいる。日本で水上バスに使われるような縦長の船で、約百人分の座席がある。速いものだと時速六〇キロぐらいでとぼしていく。屋根の上には荷物が積めるようになっていて、船も多い。米・砂糖・野菜・卵・ニワトリ・船外機・自転車・ラタン・イノシシの肉等々。様々な物が下流から上流へ、上流から下流へと運ばれていく。ここでは現在も、川が最も重要な交通手段なのだ。

屋根の上が上がって、兩岸の風景を眺める。カピット付近には、木材会社のロギングキャンプ（丸太置場）が多い。奥地で伐採された丸太はトラックでここまで運ばれ、筏に組んだり運

搬船に積まれたりして川を下る。ラジャン川には、筏を引く小型のボートや木材運搬船も多数往來している。

三〇分くらいすると、ペラグス溪谷にさしかかる。あちらこちらに岩が出ていて、白い波が立っている。このあたりにペラグスダムを建設する計画があるとのこと。ペラグス溪谷を過ぎると、流れは緩やかになり兩岸にロングハウスが点在するようになる。それぞれのロングハウスには筏状の船着き場があり、乗降客があれば停まっていくな。乗降客があれば停まっていくな。（船着き場のない場合、岸辺に乗り上げて乗降させる場合もある）

一二時五〇分、ロングバンドン着。クニヤ人の村で、ウォーレンの出身のロングハウスだ。彼自身は、現在カピットに住んでいて、ラジャン川流域を旅してまわっている。ロングハウス

を巡り歩いて村人の話を聞き、何が問題なのか、どう解決していったらよいかをいっしょに考えるのが彼の仕事である。

ウォーレンの両親の家に案内され、両親、弟さんに紹介される。昼食をとり、しばし休憩。非常に暑い。

廊下で村の子ども達と遊ぶ。一四才を筆頭に、男女あわせて十人くらい集まる。青木さんが針金細工の自転車の作り方を教える。大好評。

子ども達が村を案内してくれる。ロングハウスは高床式になっていて、床下にはロングボートがたくさん置いてある。ロングボートは、縦長の木製ボートで、床板に側板を一枚付けただけの簡単なものから、トタン屋根のついた立派なものまで様々。上流の先住民にとっては、唯一の足である。小さなものは糧で漕ぐが、船外機をつけて動かすことが多い。

午後四時、ウォーレンの弟、アーサーのロングボートをチャーターして上流に向かう。アーサーは、ロングボートで村人を町に運んだり、観光客を案内したりするのを仕事にしている。

途中ペラガの町で、今日泊めてもらうロングハウスへのお土産を買う。ペラガでラジャン川は、バルイ川とペラガ川の二またに分かれていて、私達はバルイ川を上っていく。

午後七時、クニヤ人の村、ロング・ハンダワー着。バクンダム建設予定地のすぐ下流に位置している。

ウォーレンの話によると、現在ラジャン川流域にはバクン、ムルム、バレ、ペラグスの四つのダム建設計画がある。そのうち最大のものがバクンダムである。

高さ二一〇メートル、貯水量

四四〇億立方メートル、発電能力二四〇〇メガワット。完成すれば東南アジア最大のダムとなり、六九五平方キロメートル、シンガポールとほぼ同じ面積の土地がダム湖に沈む。そこにはクニヤ、カヤン、プナン、ウキット、ラハナンといった先住民のロングハウスが一五ヶ所もあり、約五千人の人々が移住しなければならなくなる。

二〇二〇年までに先進国の仲間入りをめざすマレーシアは、急速な経済成長を続けており、それにとまない電力需要も急増している。バクンダムで発電される電気の大部分は、海底ケーブルで都市や工場の集中する西マレーシアに送られるものと思われる。

バクンダムの建設計画は八〇年代初めに持ち上がり、中頃には基本的な調査をすでに終えている。計画は一時延期されていたが、昨年あたりから再び、建

設着工の話が出た。五八億ドルのビッグ・プロジェクトだが、サラワク電力供給会社発注の民間事業として工事が行われるようだ。しかし、建設を請け負う予定のエクラン社は、連邦政府のマハティール首相、ザイヌディン前蔵相と関係の深い企業である。木材、建設、ホテル業などの複合企業であるエクラン社は、ダム工事以外にも、水没地とその周辺八万ヘクタールの土地で、木材伐採を行い利益をあげることができ、また電線会社を買収し海底ケーブルの生産を計画している。

その一方で、ダムを造ったことのないエクラン社が、ダム工事を完成し、きっちり維持・管理ができるかを疑問視する人々も多い。エクラン社が、この巨大プロジェクトを行うための十分な資金を集めることができかどうかについても同様である。また、巨大なダム湖の影響

で、地域の気候が変動したり地すべりや地震が起こることが心配されている。そして、五千人の移住者に対する補償や代替地をどうするかといったことも、まだ明確にされていない。

夕食後、ロング・ハンダワールの人々とバクンダム計画について話をした。ダムの下流にあり、村が沈むわけではないので、若者の働く場所ができる、道路ができる、電気が十分使えるようになるといった、賛成の声が多かった。電気は自家発電でまかっているが、燃料が高いため時間制限がある。この話をしている時に、午後九時になり電気がすっと消えたので、村人の中から「どうだ、見ただろう」という声が上がった。

現在、村の人々の関心は、ダムが決壊しないかということと、下流の村にも補償が支払われるかどうかのふたつ。青木さんが、

北海道の二風谷ダムを例に日本での先住民と開発の関係が話したが、彼女の意図に反して、補償がどの地域にどのように支払われたかに質問が集中した。政府のやることだからと信用している一方で、不安も抱えているといったところか。

ウォーレンによると、客人が先に寝るのは失礼だということなので、最後までつきあう。部屋に戻った若者が弾くギターの音を聞きながら眠りにつく。

五月一日(日)

雨のち晴れのち雨  
 ロング・ハンダワール バクン  
 溪谷 ウマ・シター プナン・  
 ベラバン ベラガ

雨が降りやむのを待って、午前九時一五分、出発。水量が増すと危険で行けないという場所である。ロングボートに乗りこ

む前に、バランスをとるためすわる場所を指示された。すぐに急流に入る。ウォーレンは船先で中腰になり、ともでエンジンで操るアーサーに航路を指示する。ボートは、右に左に大きく傾きながら流れを上っていく。時々、水しぶきがかかる。保津川下りもかくやという感じである。

九時四五分、バクンダム予定地点を通過。最も狭いところだと、川幅は二〇メートルぐらい。ベラガ付近で百メートルを越すのだから、流れが急になるのも当然だ。この急流を小さな船が、筏を引っ張って下っていくのだから驚きである。

急流を越えたところにト口場があり、船を停める。少し上がったところに、休憩用のあずまやがある。バルイ川を旅する人々が、難所を越えたあとでひと息つくところのようだ。「ここでこのんびりできるのも、もうそんな

ないかもしれない」アーサーが、少し残念そうに言った。

天気は回復してかんかん照りになっており、出発からのわずかな時間で、手足の露出していた部分が日に焼けて真っ赤になってしまった。

一一時三〇分、ウマ・シター着。カヤン人の村。売店で食料を買う。イノシシの肉は、冷蔵庫に入っている塊を、肉切り包丁で豪快に切ってくれる。船で川を運ばれてきたものなのだろうか。村の人々から、ダムの話を聞く。

さらに川を上って午後一時四〇分、プナン・ベラバン着。定住したプナン人のロングハウス。川から上がってすぐのところはロングハウスが建っている。床が普通の物よりかなり高く、鈴なりの子ども達が私達を見つめていた。川に面して廊下があり、風が気持ちよい。女達が、ラタ

ンを削って太さをそろえる作業をしていた。男性二人からダムの話聞く。

午後二時一〇分、出発。川を下って、ベラガに戻る。途中の岩場でアーサーの用意してくれた野外料理を食べる。イノシシの串焼き、脂身の焼いたもの、カカオの葉で包んで蒸した米など。

夕方の川は風がきつく、Tシャツの上にサロンをかぶっても、まだ冷えた。

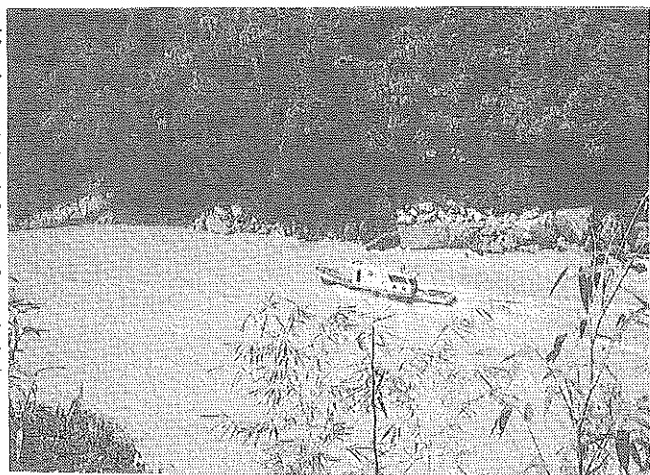
午後六時三〇分。ベラガの町に到着。ホテルにチェック・イン。

二日にも満たない日程で、バクンダムの建設によって影響を受ける地域を駆け足でまわった。これだけで、現地の事情などわかるわけがない。ただ、いくつかの村で人々と話をして感じたのは、バクンダムができるかどうか、どのような影響があるのか、どの

ようにして補償が支払われるのかといった情報が、村の人々のレベルまでほとんど伝えられていないということだ。ダムができれば移住しなければならぬのに、補償の確約を取らないまま、政府のやることだから、他の村がすでに賛成しているからといって賛成してしまう。ダム湖の底に沈む予定の村のほとんどが、すでにダム建設に賛成を表明しているらしい。その一方で、ダム建設に対する不安が、人々の間にくすぶっている。五月末、水没予定地の先住民のリーダーが、三五〇〇人分のダム建設反対の請願署名を政府に提出するために、クアラルンプールにやって来たと、新聞は報じている。

サラワクの先住民の多くが、発展を望んでいるだろう。一日中好きな時に、電気を使えるようになりたいというささやかな願いを否定する権利は、私達日

◀ バクンダム予定地付近



本人にはない。しかし、便利になる一方で、失っていくものも少なくない。特に巨大開発による急激な変化は、自立的な経済を従属的なものに変え、むしろ貧困化を促進する。都市化・工業化した他の地域に電力を供給するための巨大ダムではなく、もっと身の丈にあった発展の形があるはずだ。

昨年の七月と今回、二度現地を訪れて、サラワクについて何も知らないということに改めて痛感した。サラワクの熱帯林問題に関わり始めてから、もう五年になるといふのである。もっとサラワクについて知りたい、調べてみたいと思う。

特に今回の旅では、川と人々の暮らしの深いつながりに感激した。「サラワクの川と森と暮らしと開発」このテーマを、しばらく追いかけてみたいと思う。

一見遠回りに見えるそうした調査の積み重ねから、何か解決の糸口が見えてくるのではないかと、そう思っている。

〔参考資料〕

アジアウィーク

(二九九四)三、一六

ジャバントイムス

(二九九四)五、二四

\*人名及び地名の一部は仮称になっています。

# 熱帯林連続講座

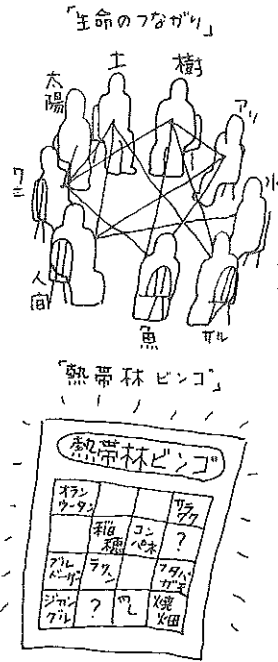
一 衆 衆 に 森 を 残 す た め に 一

4月16日

第①回「熱帯林ワークシヨップ」

第①回「熱帯林ワークシヨップ」

荒川共生さん(関西セミナーハウス)



熱帯林が減少して行く様子は、テレビや新聞によって何度か取りあげられ、なんとなく「熱帯林を守らなアカン！」なんて頭の片隅では感じているものの、「何で守らなアカンのやる？」とか、「なんで熱帯林が少なくなっているんやろか？」とか、「そもそも熱帯林って何や？」と言う素朴な声に答えるため開講された連続講座。その第一回は熱帯林全般について、講義形式ではなく、参加者が自ら体を動かして考えるワークシヨップを行いました。

サラワクの森林伐採とそこに住む先住民族の問題を取り上げたビデオ『残酷な森』を見た後、ゲーム『熱帯林ビンゴ』を行いました。熱帯林に関する一六の質問があり、参加者は歩き廻りながら質問に答えられる人を探し、相手が質問に答えられたらその名をビンゴシートに記入します。このゲームによって、参加者はこの場にどんな人が来ているのかを知り、同時に緊張をほぐしたのです。そして気が付くと、熱帯林に関する知識が一六も増えているのです。

次に行ったのが『熱帯林大風呂敷』。このワークシヨップは物を使ったワークシヨップで、大風呂敷の中には熱帯林に関する「物」がいくつか入っているのです。ある物は製品や加工品であったりします。製品は出来るだけ我々の身近にあるものを選びました。そうして、参加者に熱帯林と身近なものとのつながりに気付いてもらうのが目的です。アイスクリーム、口紅、合板、チヨコレート、植物性洗剤など、いかに熱帯林とつながっているかご存じですか？

三つ目のワークシヨップは『生命のつながり』です。熱帯林には、オラン・ウータンをはじめ多種多様な生き物がいます。それら一つ一つが何らかの形で繋がりが、生態系を作り上げていくこと、さらにその中の生き物はどんなに小さなものでも、その繋がりの中で意味を持っていることに気付くワークシヨップです。そして、その生態系の中で人間はどんな存在であるかと言うことを考えさせられました。

最後は、参加者が自分の意見をまとめ、他人の考えを聞くワークシヨップ『フォト・ランゲージ』を行いました。六八名のグループに別れ、今日のワークシヨップを通してどのように感じたか、他の人はどう考えているのか、写真を通して語り合いました。

講義を予想して来られた参加者は多少驚かれたようですが、一方的に知識を与えられるのではなく、参加者自らが参加することによって熱帯林を《体感》し、また熱帯林を《考える》ことのできたワークシヨップだったと思います。

(荒川)

「ウータンから」 荒川さん、色々なワークシヨップ有難う。

# 熱帯林連続講座

— 来 衆 に 森 を 残 す た め に —

第②回「熱帯林の生態」——講師・渡辺弘之氏

\*\*\*タイトルと違った内容\*\*\*

5月21日

連続講座の第二回は、講師に京大・農学部教授の渡辺弘之さんを迎えて、『熱帯林の生態』というテーマで行われました。参加者は約三〇人。広報活動にぬかりがなかったスタッフのせい、出足好調といった始まりでした。

渡辺さんのお話は、テーマの「熱帯林の生態」とは少し趣きの違う、熱帯林産物と私達の生活の結びつきをスライドを交えて紹介していくという形で進みました。ここで紹介された林産物は、チヨコレートの光沢剤やラッカーの赤紫の色素として使われているラック、フタバガキの実から取れてチヨコレートに、カカオバターの代用品として使われるテンカワン等、七種類にも及び、改めて私達の生活にたくさんの知られざる熱帯林産物が関わっていることを教えて下さいました。

しかし、渡辺さんの結論をまとめると、「単に、熱帯材の輸入禁止で事は解決しない。むしろ、地元の人達の生

荒木琢磨（ウータン）



活を良くするために、効率的な林産物の生産が必要とさえ言える」というものでした。

日本で豊かな生活をしている私達にとって、熱帯林を保護しろと、声をあげるだけでは、説得力がないことを新めて認識させられました。

連続講座を受けて  
私はこう変わった

竹内新作

「熱帯雨林」という言葉と、そのもつ意味を考えるようになったのは、つい最近のことである。

子供の頃は無邪気なもので、密林、ジャングル、ターザン、アニメ的動物達をマンガや映画の中に夢見ていれば良かった。そして、大人になっても、今までは、何となく異国情緒のムード（観光）しか頭になかった。ましてや、そこに住む人や動植物の生存を、この我々が脅かしているなんて考えもしなかった。

最近、何かと「グローバル」とか「地球規模」で表現されることが多い。文明が異常なまでに（精神がついていないという意）発達した現代においては、まさに我々の行動のひとつひとつが他に与える影響は、従来の地域や国の領域を越え、地球規模はおろか、宇宙まで汚染し、そしてひいては我々人間の存在までさえ脅かしている

（「怒り」）





\*...総理の外務担当秘書官にお会いして要望書と、スウェーデンの子供の「熱帯林を守って!」という署名を約3万人分、おいてきました。

福永一美

\*これからもがんばってください。領収書はいらないです。

森谷将

\*いつもありがとうございます。会費と残りがあればカンパにお元気で活躍を!

倉内和子

【会費・カンパをいただいた方】

【大阪】

- 浅野かおり 河添純子 小林圭二
- 竹内新作 藤谷不三枝 見取徳明
- 向井千晃

【兵庫】

- 倉内和子 西村和則 堀越英代
- 大平浩子 井下秀子

【京都】

- 橋本征二 森谷将

【奈良】

- 山川信恵

【名古屋】

- 大沼淳一
- ジョアキン・モンテイロ

【長野】

- 福永一美

【東京】

- 井上真

【香川】

- 山田睦美 馬場清

●記載漏れがありましたら、お許しください。



●イラスト・森谷二郎

るのである。

現在、我々が最も失いつつある『他への思いやり』を、今こそ一人一人が発揮しなければ、環境問題を始め、地球上の社会的問題は増えこそすれど、減る(解決)ことはない。

生きとし生けるもの、皆んなが平等に住む権利のある、この『碧い地球』を守るこそ、平和であり、幸福なことだと思ふ。

その着実な行動に、「ウータン」の人達が日夜取り組んでおられるのには、感謝と敬服の念にたえません。

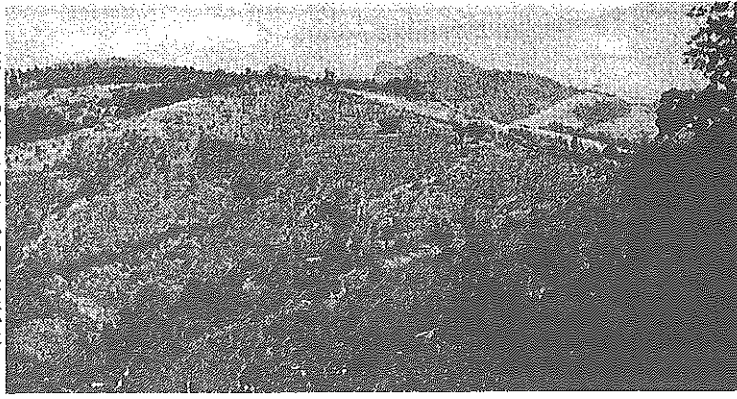
私が「地球的規模」の変心ができたのも、この講座のお陰とと思っています。「ウータン」に幸せあれかし。

\*竹内さんは通称講座に参加されたの感想を書いていただきました。現在では定例会にも来られております。大変ありがたいことです。ハイ。

ウータンの活動が新聞で紹介されました。ご一読を……。

# 熱帯林保護粘り強く

4 読売 94 5 21



はげ山の広がる風景もかつては豊かな森。伐採された木は輸出され、家具や建築材に（マレーシア・サラワク州で）

環境破壊が進む熱帯林。遠い国々の出来事では決してない。そこからの切り出されるランなどの木材は、建築をはじめ家具、調度品など深く私たちの生活にかかわっている。

その熱帯林は、世界の森林面積の二分の一を占め、地球にはかけがえのない存在。一大酸素供給地であり、熱帯地方の人々の生活を支えるだけでなく、地球上にすむ生物の半数以上の種類が分布しているまさに自然の宝庫なのだ。

と云うが、木材の伐採で毎年、日本の面積の半分に出回る約一千万立方メートルの林が消失、地球の温暖化といった影響も始めているという。



マレーシア、サラワク州へ移り、パパン・ニューギニア、ミヤンマーへと広がる。そんな熱帯林の開発を懸念し、保護を訴える市民グループ「ウータン・森と生活を考える会」が、大阪で地道な活動を続けてい

る。今年で発足七年目、事務局長の西岡良夫さん(四十三)スタッフは八人で、会員は全国で三百人を超える。

日本は途上国から輸出される四分の一を受け入れる輸入大国。この三十年間に、輸入先はフィリピン、インドネシアから

当時、予想もなかった申し入れに戸惑い、担当者は「無理」という言葉を繰り返した。しか

## 公共事業から熱帯材削減 変わる行政の意識



森をつき進むブルドーザー。広大な環境破壊が心配されている（マレーシア・サラワク州で）

「日本で熱帯林を守る運動は、使用量を減らす」と、四年前から自治体の公共事業に目を向けた。大阪府や大阪市

に対して「ビル建設でコンクリートを流し込む型枠に、熱帯材を使わないで欲しい」と交渉を始めることにした。

希少で、将来は高騰する。その時に打つ手はあるのか」と粘り強く反論してきた。

活動の積み重ねは二年前、プラシルで開かれた地球サミットも追い風に。大阪府は昨年、鶴見区に熱帯材を型枠に使う国際環境技術センターを建設した。大阪では四十四自治体のうち、二十一市がモデル的に熱帯材削減工事を決め、府原レベルでは全国一の達成率になった。

確実に行政意識は変わっている。西岡さん自身、堺市の職員。歯がゆさもあつたが、少なくとも前向きな状況に、光を見つけた思いがある。

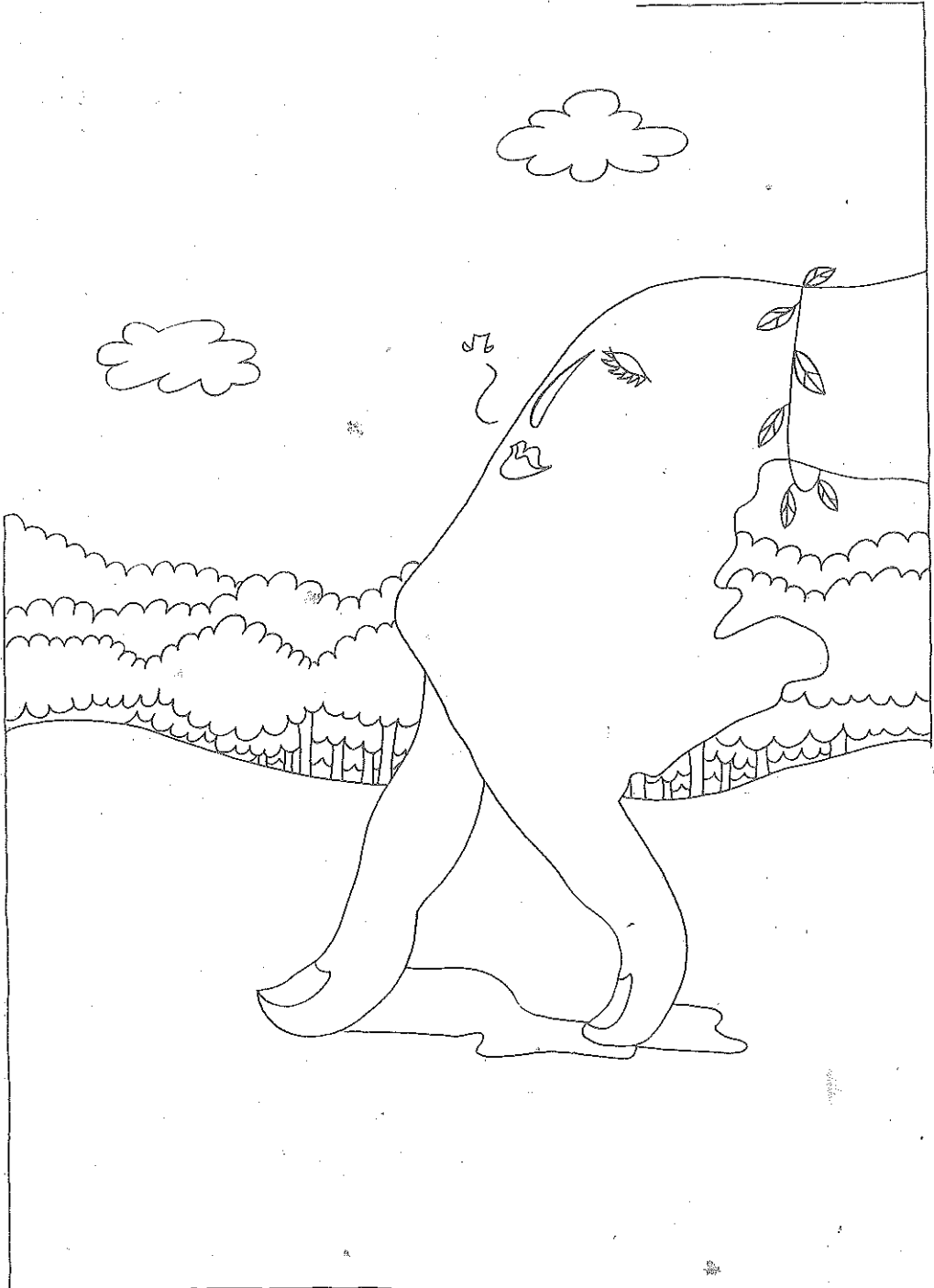
「共感する力を生み出した。それが、運動の原点だ。」(萩原 久美子)

## © REIKO INOUE 井上 今子

1972年兵庫生まれ、京都在住。  
 京都精華大学 デザイン科4年、ユーモアイラストレーションの勉強(制作)中

「指や土や水に直接触れる。本当に、

私たちに必要なものは何か、見つめなおして行きたい  
 です。」



# HUTAN ACTION SCHEDULE

## 熱帯林きょうと 「非暴力トレーニング」 セミナー

熱帯林保護活動を題材とした「非暴力トレーニング」のセミナー  
意志決定の方法や、新メンバーのためのトレーニング、ロールプレイを通じた  
戦略の考案方法、などを考えています。トレーナー 関久雄さん(非暴力アクションネット)

**対象**：グループ作りの手法、戦略作りの手法、環境教育、開発教育の手法に関心  
のある方、約20名(予約制。応募者多数の場合は先着順とさせていただきます)

**期間**：1994年8月5日(金)～7日(日)

**会場**：京都大学吉田寮食堂ホール

**宿泊**：京都大学吉田寮(京都市左京区吉田近衛町 京都大学キャンパス内)

**食事**：食堂厨房を用いて自炊(あとかたづけも含めてトレーニングの一部とします)  
**入浴**：近場の銭湯(1回290円)

**参加費用**：5000円(食費、宿泊費を含みます)

**申し込み**：下記まで電話でご予約下さい。

熱帯林きょうと 075-721-9872(橋本)

<団体連絡先> 京都市東山区朝町五条下る1-397-305 伊東気付  
075-551-5439(伊東)



79バカキ  
科の種

予定は以下の通りです。

	9時～12時	14時～17時	19時～22時
8月5日(金)			導入
8月6日(土)	トレーニング1	トレーニング2	トレーニング3
8月7日(日)	トレーニング4	トレーニング5	

今月号は京都のグループの皆さんを紹介しします。

●USA製 アッシュワレーまでです。4色カラー刷

買ってネ!

ウータン31号のイラスト、石丸千恵さんのイラストです

新しいTシャツです

出ました。

M.L.サイズとも  
¥2,500円  
(送料別)

新しいTシャツ

### INFORMATION

[お知らせ]

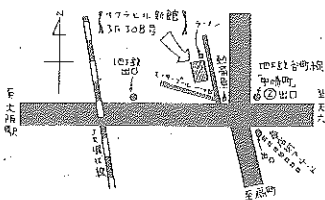
●振込番号が変わりました。  
新しい番号は次の通りです。

00930-4-3880

これからもどうぞよろしく  
お願ひします。(井下)

ウータンから

### 【ウータン事務局】



●ウータン定例会は、第2と第4火曜日午後7時半から、関西市民連合「事務局」(上記地図)にて行っております。  
TEL:06)372)1561  
まで。

コロンデル  
ライター  
モッテル  
ワラッテル

ライター  
カビニ  
ヨーイ  
ドン

いつもながら、メンバーから原稿をあつめてやり始めた編集作業、まる一日かかってもお出戻り、最終は夜中になってしまふ。  
あれねたらん、これは入りきらん、なんじゃもんじゃで四苦八苦。やつとウータンに出したら早やろや回が又やってくる……。 (N)

HUTAN

